

善人のみの家庭には争いがたえない

可成り前になりますが、ご本山のカレンダーに標題の法語が載っていた事がありました。ご記憶の方も多かろうと思います。その月のなかば頃、あい前後してお二人の方から同じような意味内容の質問をお受けした事がありました。

「何回読み返しても意味がよく解らない。」「ミスプリントではないですか。」「悪人の家庭では争いが絶えないというのならよくわかるのですが。」とのこと

浄土真宗の教義の真髄に迫る大切な要諦に直接関連する内容でもありますので、時間をかけ一緒に考えさせていただきました。

「世の中に真の意味での善人はいるのでしょうか。善人ぶってる人は多いように思いますが。」というのと、げげんな顔をなさいました。

私達は本来、自己中心的で、自分の尺度でしか物事をはかる事が出来ません。平たくいえば、私の善い人は私の好みに合った人でしかありません。好みに合わない人は、よくない人、悪い人と評価しがちです。しかし、その方も、その方のグループの中では、話のわかる善い人と評価が逆になるかもしれません。私達が捉える善悪は所詮、相対的なものではないのでしょうか。善人のみの家庭というのは、私は善人と思ってる人達だけの集団と考えますと、何かが起こった時、その原因と責任は私以外の人だと皆なして責める事になりましょう。争いだけではすまなくなるかもしれません。

「悪人のみの家庭には平和がある」こんな捉え方もできそうです。ご聖人の「悪人正機」の心にも触れ、時間を忘れて、談じあった事です。